



写真左から、藤田さん、田中さん、芝山さん

「美杉地域7地区の高齢化率は、平成22年4月1日現在で49.85%。そのうち4地区は高齢化率50%を上回っています。山に囲まれた地域ですし、交通も不便なことから、一分一秒を争う時に、どうすれば命を救えるかは、常に課題となっていました。そんな中、かかりつけ医や緊急連絡先、血液型などの医療情報を容器に入れて冷蔵庫で保管し、緊急時に役立てるといふ事例が東京都港区や北海道夕張市などで導入されていることを知りました」といふのは美杉地区社会福祉協議会会長の田中通禮さん。

みんなの絆で安心を

美杉地区社会福祉協議会
絆のバトン

全世帯に配布、シールのデザインは美杉小学校の児童が考案

救急情報用紙を円筒状のプラスチック容器に入れ、どこの家にもあり、地震などでも壊れにくいといわれている冷蔵庫へ保管する「絆のバトン」。一人暮らしの高齢者はもちろん、一人暮らしではないが昼間は一人で過ごしている人、持病のある人、子どもなど、いざという時は年齢に関係ないことから、美杉地域全世帯への配布が決まりました。

高齢者世帯に配布するケースはありますが、全世帯に配布することは全国的にも珍しく、事務局として関わった芝山紀男さんは「全戸配布にあたり、すべての人にこの事業を知ってもらうことが重要だと考え、保管場所を知らせるシールのデザインを、美杉小学校へ依頼しました。児童がデザインすることで、家族・近所へ自然に伝わり、子どもたちが手掛けたということで親しみを感じられ、理解しやすくなるのではないかと思います。テーマが抽象的で難しかったのですが、先生方のお陰で全校児童がデザイン画を提出してくれました」と振り返ります。

お盆までに配布すれば、家族が帰省した際に用紙を書いてもらえるのではないか、また台風シーズン前には設置したいという思いから、昨年7月から自治会および民生委員児童委員の全面的な協力で配布が始まりました。

バトンを通じて

3月から準備をはじめ、8月には全戸配布を終えたものの、持病のことや緊急連絡先、服用薬などが変われば、バトンに入っている医療情報を常に更新する必要があります。今後は、敬老会や防災訓練など、機会あるたびに呼び掛けていくとのこと。

また、バトンやシールを見るたびに「今日も健康に過ごそう」と感じたり、誰かとつながっている・守られているという安心感が生まれることも期待されています。心のつながりや近所を思い合う気持ちが「絆」として息づく美杉地域、いろいろな思いを込めた「絆のバトン」事業はスタートしたばかりです。



美杉小学校の児童が考えたシールのデザイン